

日本名所風流千景集

卷ノ七

中村俊定文庫
文庫 18
923
7



東 京 府 下 小 金 井 一 景



カ
レ
之
停
之
其
部
一
種
山
の
景
の
中

渡邊柳汀

中村俊定

中村俊定文庫

豊後國箕寄之景

備中國濠溪之景



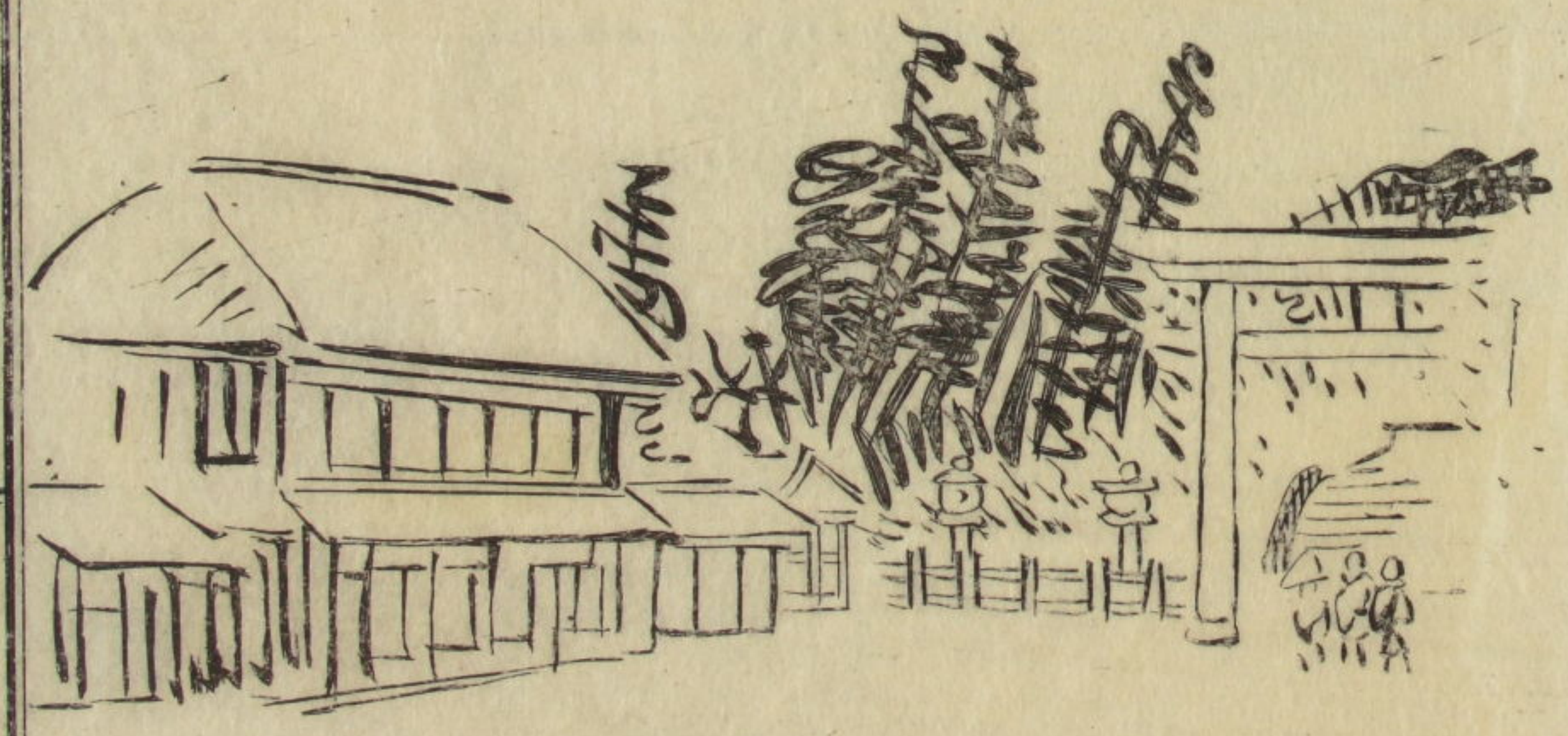
流
 御の
 かせき
 豊
 知
 子



り
 ちや
 おも
 うい
 へ
 帷
 し
 へ
 俣
 子
 院

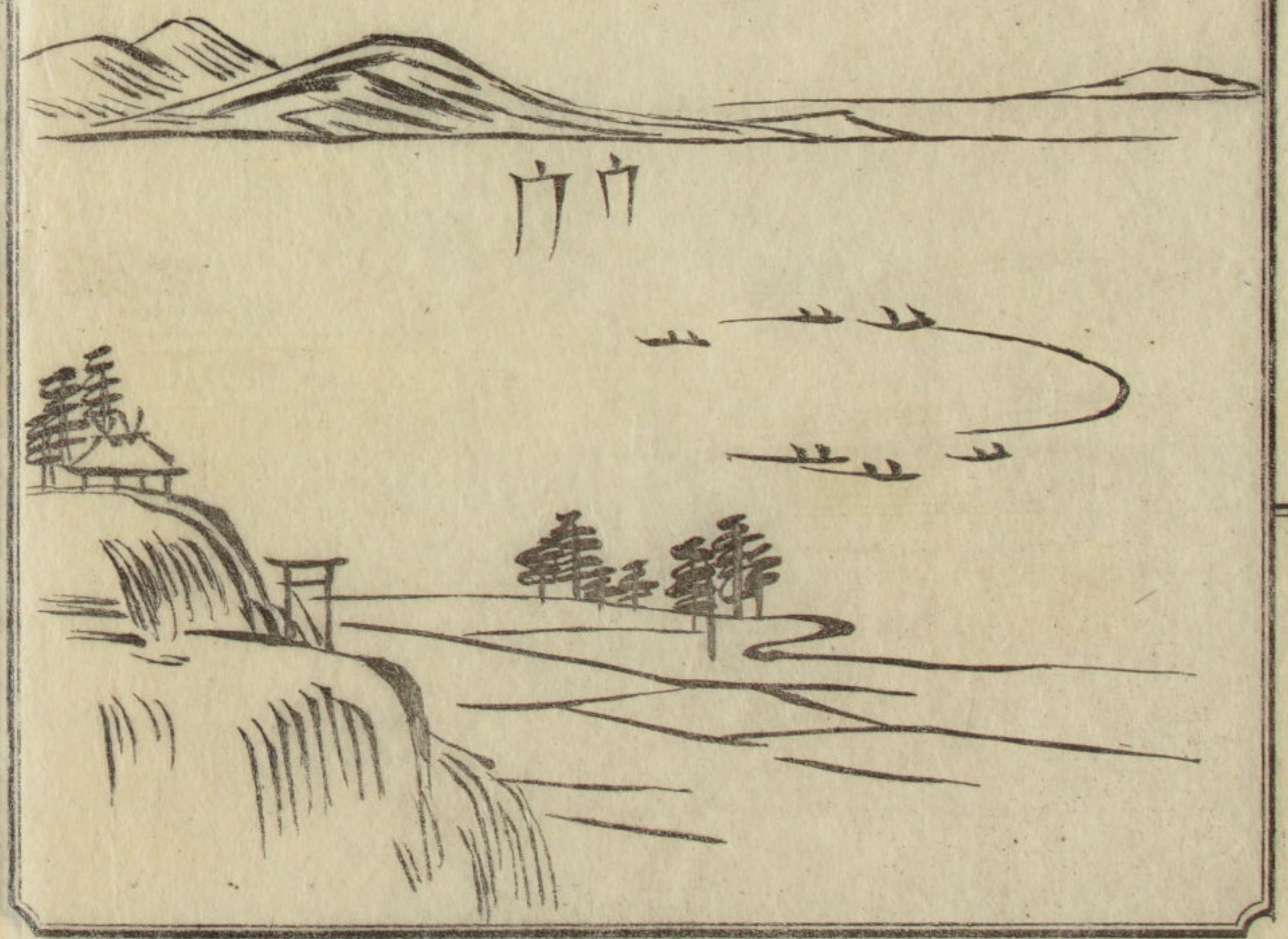
相模國鎌倉鶴岡八幡宮ノ風景

志つて
 此の寺
 常々
 見るあり
 少総
 長謀寺



周防國祇園山ノ景

風よさへ
 うら哀
 あら
 舟の中
 安藝
 由池

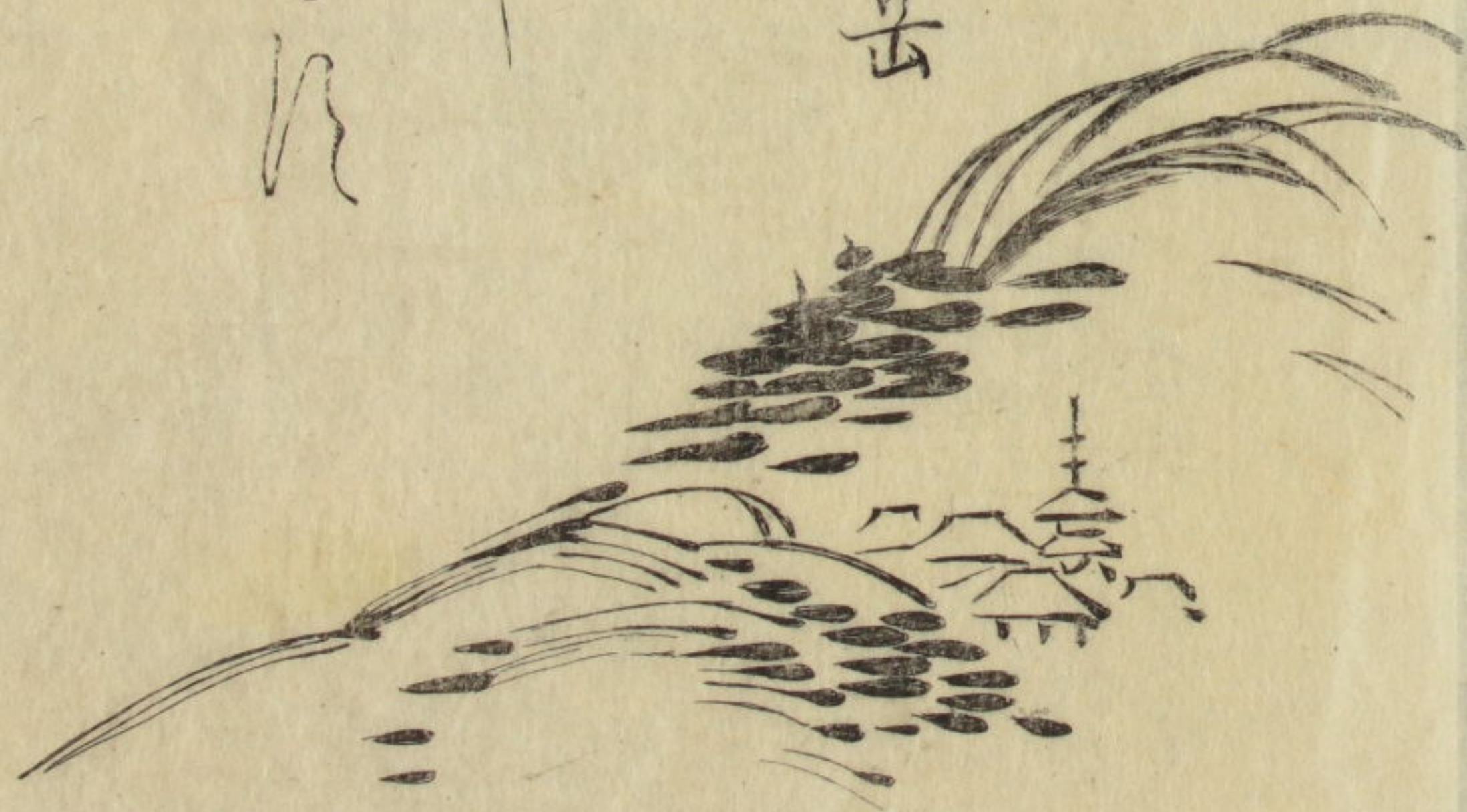


播磨國龍野五峰山ノ景

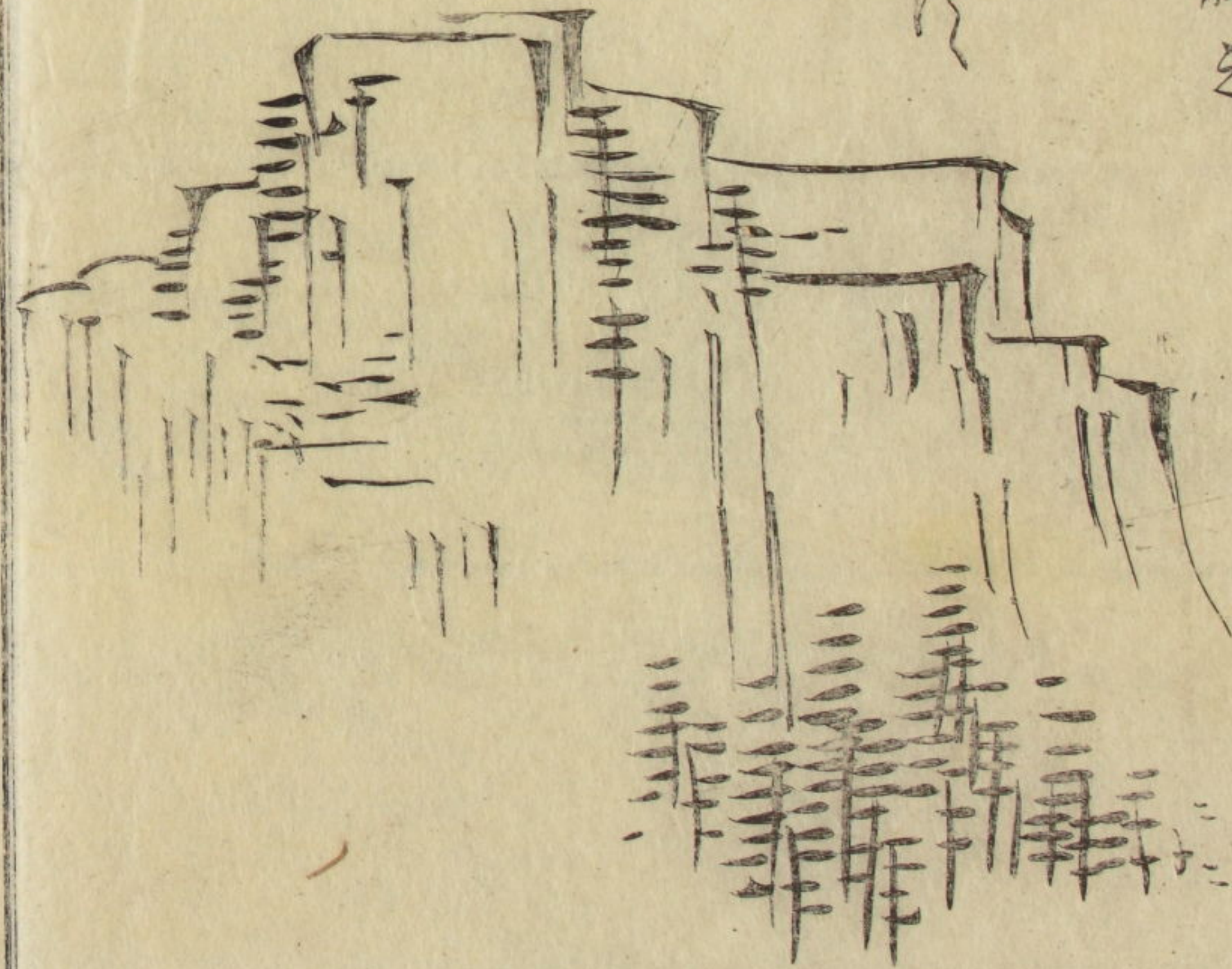
美濃國稲葉山ノ景

力持
の
せぬ
牧の場ものや
子のと、さけ

播磨
龍野
岳



東の山ノ聲
空のけしき
ほしとまらぬ
誠之



美作國神代洞之景



日向の秋の
 神代洞の景
 美作村

紀伊國宮崎ノ景



日向の秋の
 神代洞の景
 美作村

景之山彦英國前豊



山彦や中や久しあそ
 身は 鐘も此何家
 此ま
 くら
 さま

景之山佐稻寄長前肥



長前
 月まら
 すみ
 の那
 肥前
 村

美濃國落合橋之景



美濃國落合橋
の景
のありき
とて
小橋
段

卷八

百五十七

越中伏木窟之景

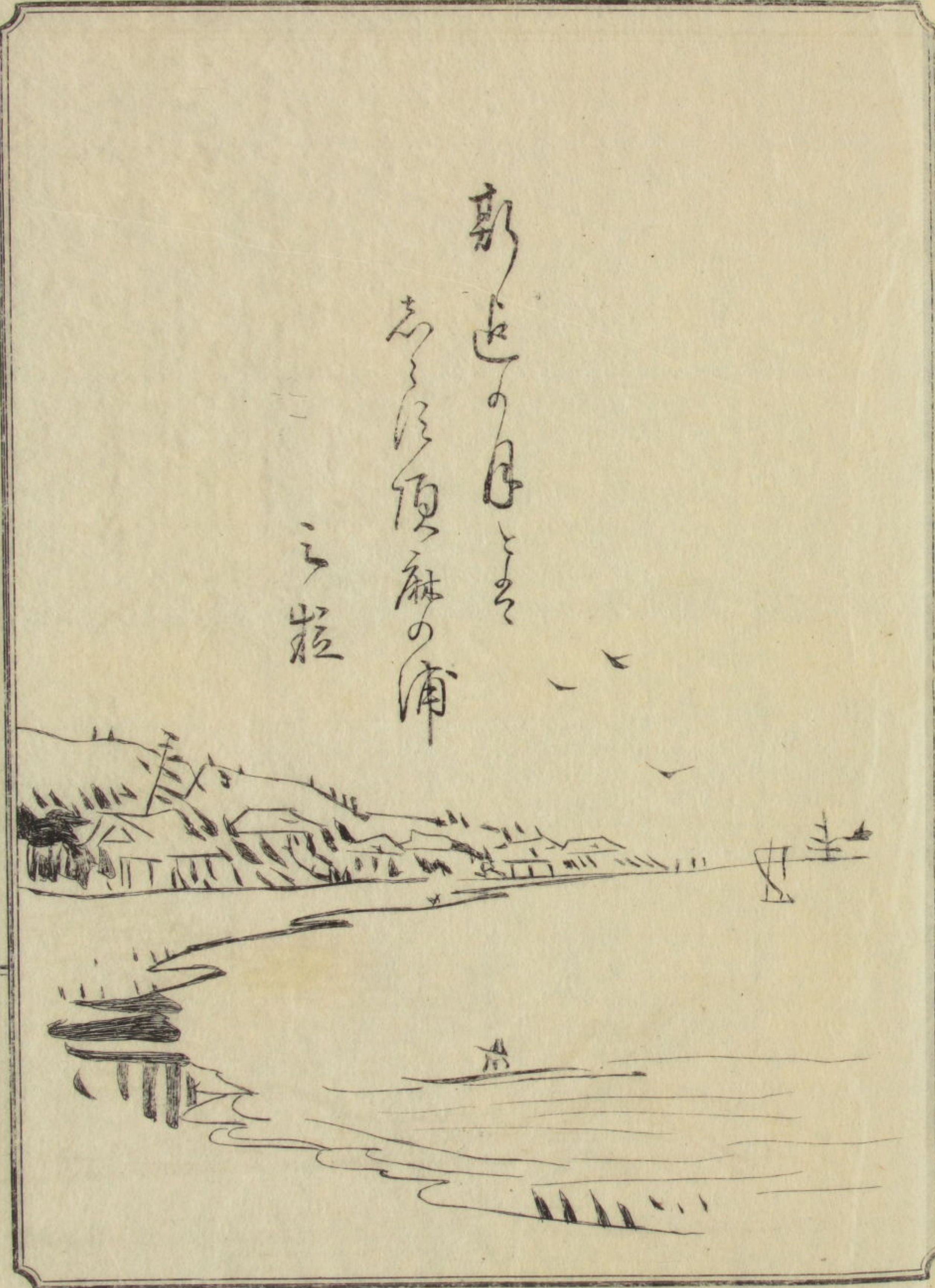


越中伏木窟
の景
のありき
とて
小橋
段

卷八

百五十八

景之浦廣須州播



郭遠の舟とま
 ありは須廣の浦
 之粒

景ノ條西國豫伊



名目やま
 の条のほり
 ちるる

但馬國鷹濱ノ景



家々の石下

を起りしは

吹雪

巾巾

但馬

起

石

播州國舞妓濱之景



羽衣のり

春夕の

如

海

後
子
院

越前國細呂木景



今以是景の
 依りて
 カ、更津

卷八

百六

加賀國春日山景



持
 家
 梅
 淇河

卷八

百六

加賀國白山景



あのみた

氷室

あし

白山

能下
河

卷七

百六十一

信濃國久米路橋景



きりたれや

衣にしほ

籠あらし

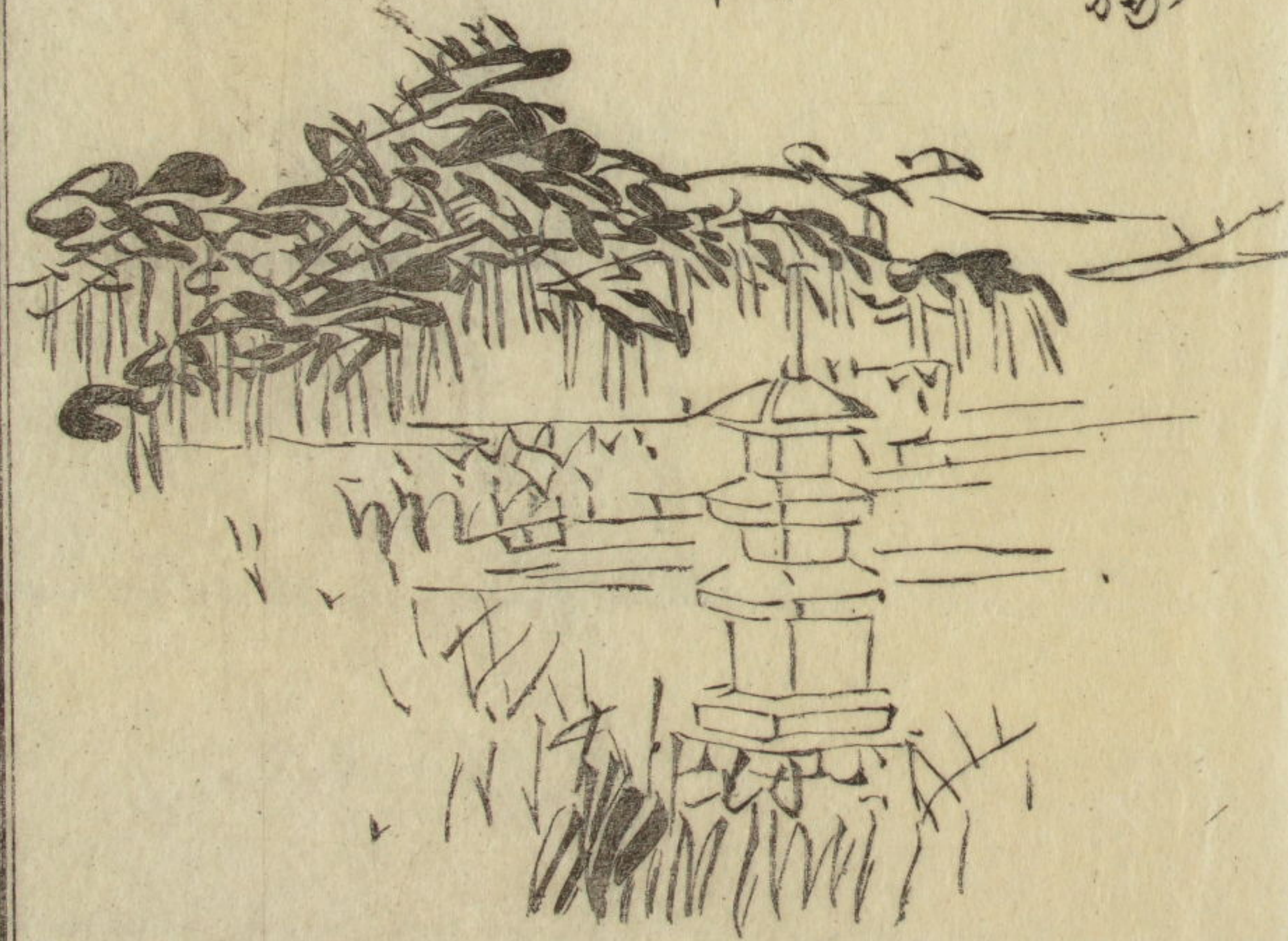
岩代
菜月

卷七

百六十二

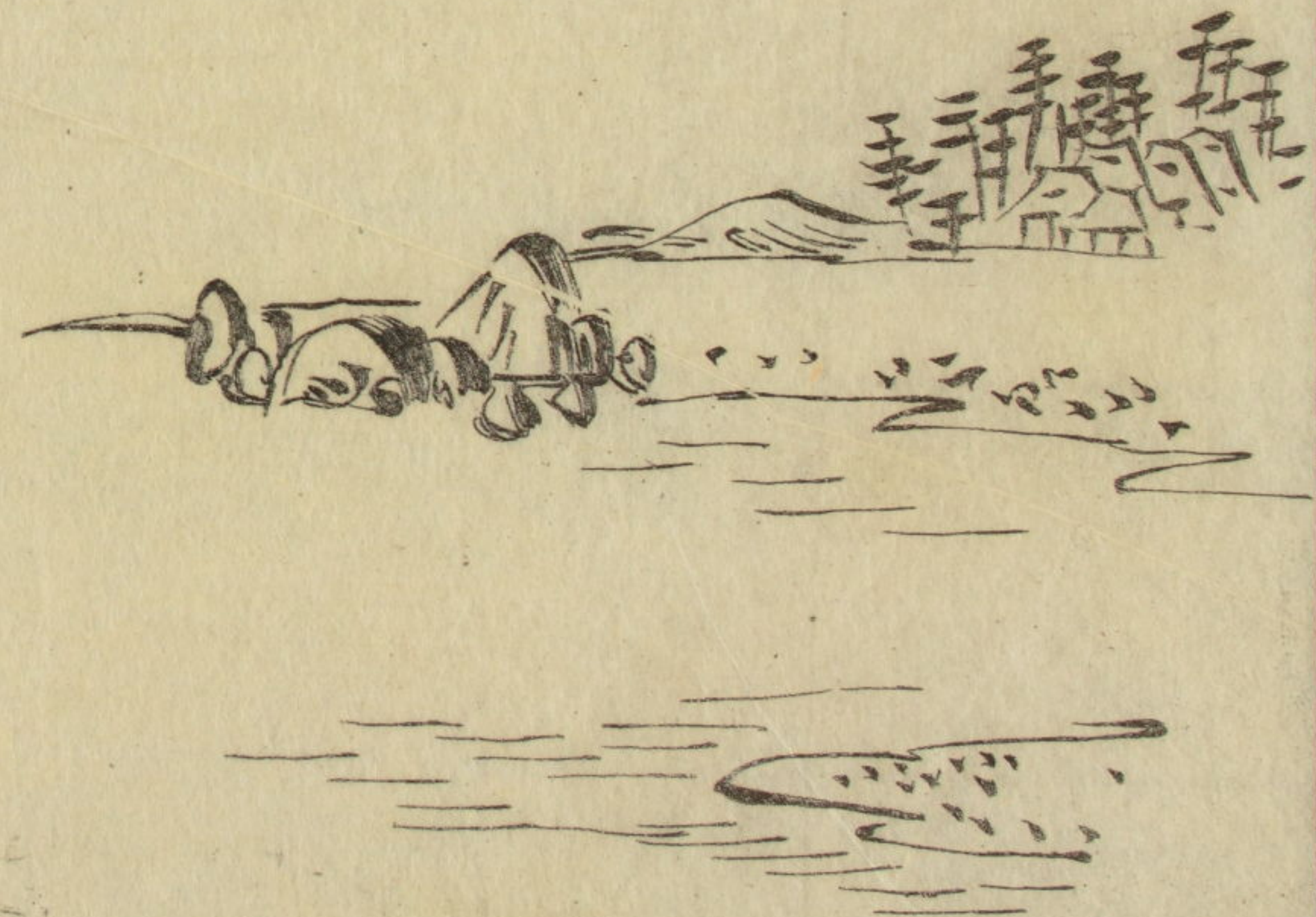
近江國唐崎ノ松

唐崎ノ松
 唐崎ノ松
 唐崎ノ松
 唐崎ノ松



淡路五色濱ノ風景

浪先ノ
 おしあ
 さすや
 月ノ
 長門
 梅岩



下總国香取郡六十島景



飛の嶽や
 霞の
 濃き
 夕
 千
 和

相所鳴立澤圓位堂景



老
 多
 少
 多
 少
 多
 少
 多
 少

卷ノ...

百ノ...

駿河國富士郡二川ノ景



浪々
氷ノ夜
遠に
蕙取
白
友の
了何々

伊豆國伊呂尾寄ノ景



夜ノ
まよひ
一
一

卷ノ七

百六十三

日光山裏見瀑布景



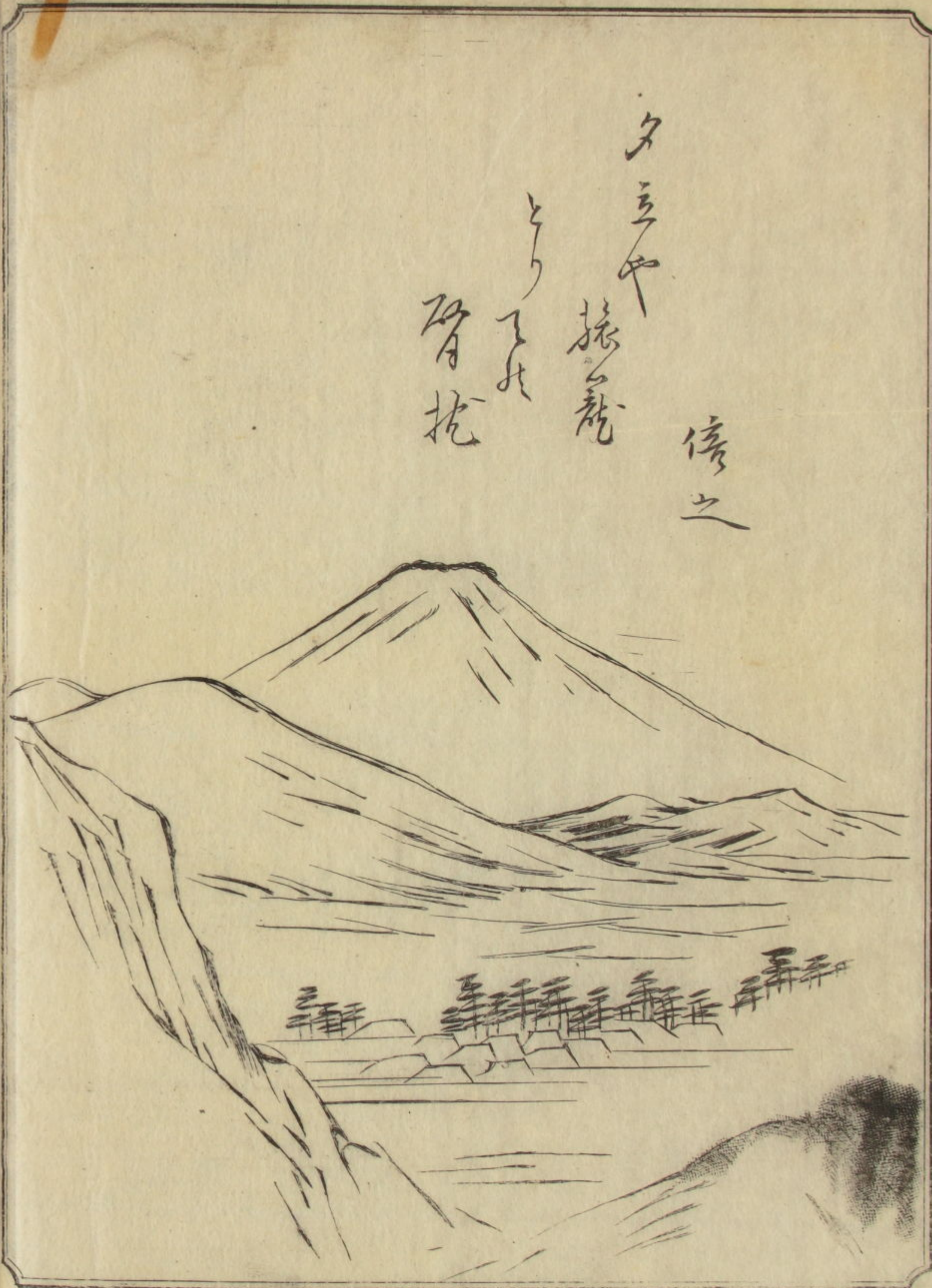
日向の湯

うしろの郷

石

湯

甲斐國府中景



夕立

旅籠

傍之

野

と

肥前大國村ノ景



肥前大國村ノ景
 新
 山ノ上
 鳥松

卷ノ七

百六十六

信濃國媛捨山ノ景



信濃國媛捨山ノ景
 山ノ上
 鳥松

卷ノ七

百六十六

備中 國倉 敷ノ 景



伊勢 國 岩 戸 山ノ 景

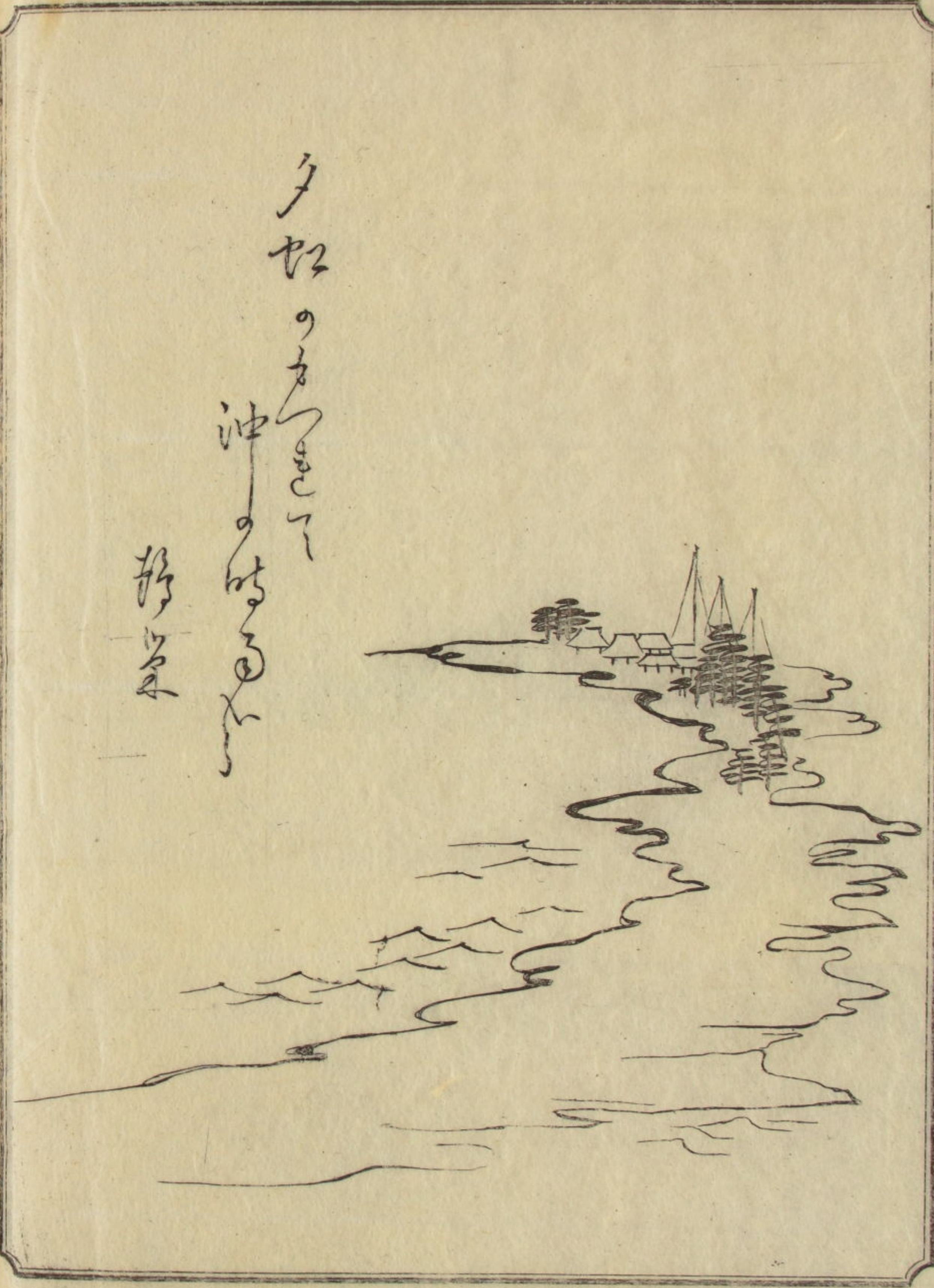


肥後國阿蘇山ノ景



肥後國阿蘇山ノ景
山ノ頂を捉
一ノノリノ中ノ海

丹後國葛野ノ景



夕照ノ方ノ景
沖ノ時ノ景
葛野

下野國日光山梵宇湖景



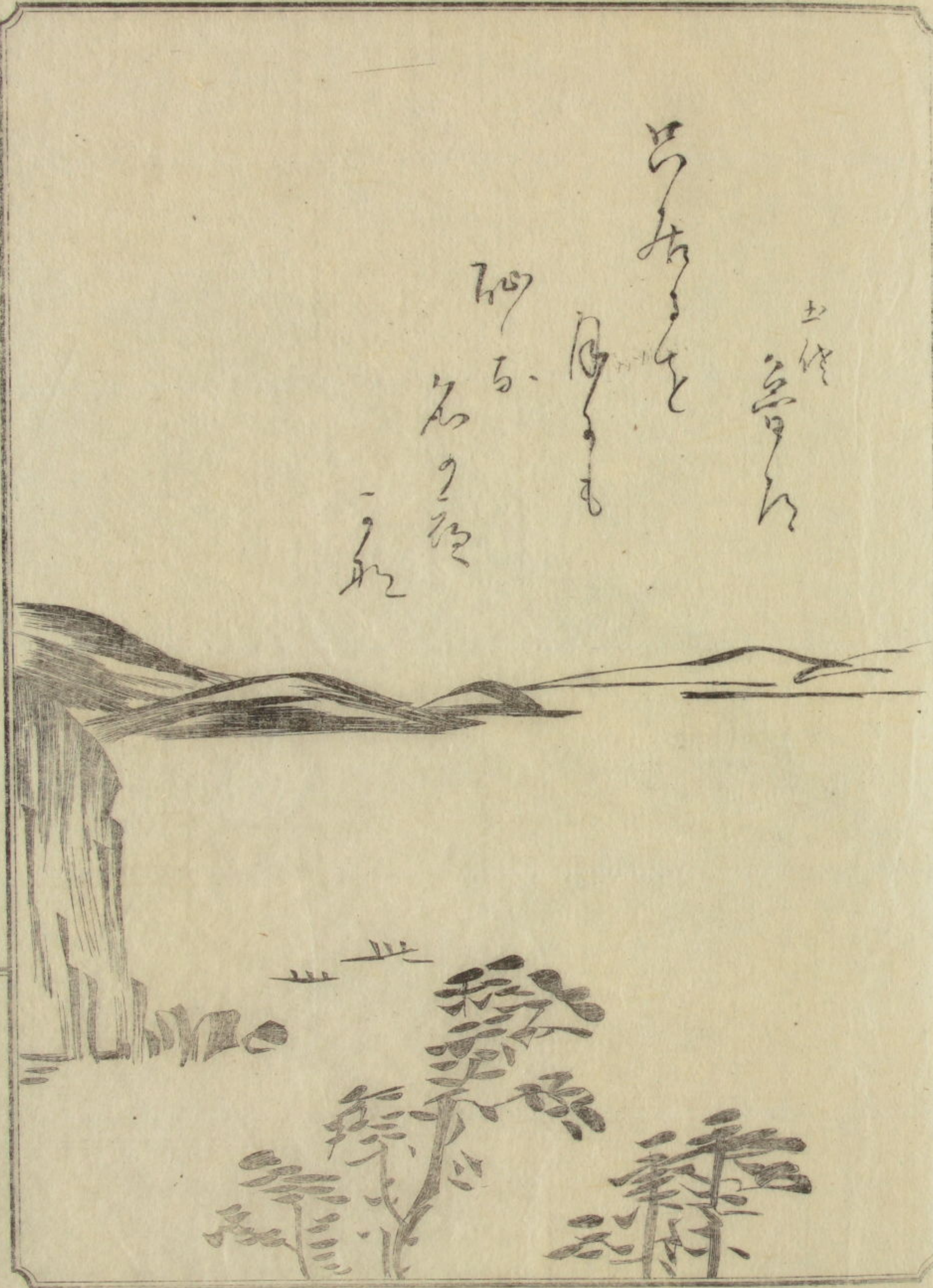
日光山
 梵宇湖
 下野國
 日光山
 梵宇湖
 下野國
 日光山
 梵宇湖
 下野國

伯耆國大野大山頂景



伯耆國
 大野大山
 頂景
 伯耆國
 大野大山
 頂景
 伯耆國
 大野大山
 頂景

紀伊國雜賀之景



紀伊國
 雜賀之景
 石
 名
 之
 記
 一
 之
 記

東海道箱根不二



深
 之
 記
 あり
 記
 連
 記

丹波國鬼城ノ景



娘の
名
川
の
端

楳
見

在
り
し

若
馬
や
な
ま
の
山

水

老
人
部
の
音

作
家

子
の
音

世
に

山
の
音

山
の
音

山
の
音

浮
豆
の
音

船
の
音

山
の
音

山
の
音

白
蟻

山
の
音

山
の
音

山
の
音

山
の
音

東山うき
蛇の舌よりもの
ねいりり

すうゆや
招屏の
社の
あつる

志れあつた
あやあや
市と書
白徳

手京
丹若石
とりり

秋と
るうとや
朝の叫
をね
ほろ

竹田あつた
あつた
目のかき
あつた

物ら
り蛇の鳴り
あつた

まら
まの
ほ
あつた

口走山
磯原
拾
あつた

も
あつた
あつた
あつた
あつた

あつた
あつた
あつた
あつた

かきく

あふ

あふ

あふけり

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

あふ

ゆき

五月五日の節も

そとに身も節も

いづれも

旅のや初も旅一

人の家 一腹

お焼丹

あつちのあつち

あつちのあつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつちのあつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

大東家老院
申れぬれ
七

光の山
身
大
月

奥深

本曾

水

門

水

水

似

水

老

水

水

水

水

水

水

水

水

水

暖い山一法を
静枝

有抗
舟

清い水

茶

舟書り知人

又

もうは

碇

相裁

松風

梅の宮

招き

鈴生りの音

清し

清

方

神の尾

抱き

稲雄

